



5億年前の日立にロマンを感じて



砂の中からダイヤモンド型の水晶がみつけれられたかな



大甕神社の5億年前の石



ストーンペインティングに夢中



きれいにできたね

百年塾とジオネット日立は10月6日～15日に市立南部図書館で「茨城県北ジオパーク&ひたちカンブリアンロック」展を開催。多賀山地の日本最古のカンブリア紀(5億年前)の石、海の生物や地層のパネルの展示を訪れた人は熱心に見入っていました。「ストーンペインティング」「ダイヤモンド水晶探し」の体験で多くの人が楽しみました。

百年塾の主なイベント(12～2月) お問い合わせは百年塾サロンまで

- 日立の「いいね」写真展(日立市立多賀図書館) : 1/9(火)～1/29(月) 9:00～18:00
- 市民教授の生き生き講座「チーズに親しむ」(教育プラザギャラリーA) ・先着16名 ・参加一回でも可
: 1/25, 2/8, 2/22(全3回) 10:00～12:00
- ひたちの桜と米粉のシフォンケーキ&癒しのお抹茶(大久保交流センター)
: 1/31(水) 13:30～16:00 ・募集16名

輝く セカンドライフ

ふとしたきっかけで出会ったことに深い感動を覚え、そこから新しい世界が広がってゆくことの喜びを日々実感している人をご紹介します。

野鳥との出会いが人生を豊かに

日本野鳥の会会員の村田百徳^{むらた かのり}さんは、日立市消防長を退職後、成沢公民館長、市の青パト員(※)などを務めました。

野鳥との出会いはパトロールの時に十王ダムで休憩中、ダムに飛び込んだ野鳥の姿とダイヤモンド



餌を運ぶサンヨウチョウ

のように輝いた水しぶきに目も心も奪われたそうです。以来、庭に来る鳥や日常目にする鳥たちがことさら愛おしくなり、もっとたくさんの野鳥を見たいと野鳥の会に入会しました。

会の活動は鳥を楽しむバードウォッチングをはじめ、調査・研究、自然や野鳥を守る取り組みなどを行っています。鳥たちのありのままの姿を観察したり、撮影するためには、自然の中でじっと何日、何時間もカメラを構えシャッターチャンスを待つそうです。カメラの調整や視線を外した瞬間に飛んで行っ

てしまうこともしばしばですが、鳥たちに「またおいで」と言われているように思えるそうです。

「鳥たちの美しい姿はもとより、親鳥がヒナに餌を与える様子や夫婦交代で卵を抱く姿は感動的ですし、鳥たちの生きる厳しさに接した時は厳粛な気持ちになります」と村田さん。野鳥たちとの出会いから、自然界に生きる小さな命の尊さや人間の関わり方、里山の大切さなどさまざまなことを考えさせられるそうです。

鳥たちを観察して常に思うことは「鳥と話ができたらもっと気持ちが分かるのに」と。「見て、見つめて、見極める」を信条に双眼鏡やファインダーを覗く村田さんの眼差しは優しさに満ちています。

※青パトは青色回転灯を装備した車を使つての地域自主防犯パトロール。



野鳥の写真は宝物と村田さん

「小学校の英語クラブ」 櫛形小学校

櫛形小学校の英語クラブでは、日立市の姉妹都市タウランガにあるタハタイ・コースト小学校との交流をしています。学校や地域の話題を10枚の写真で紹介するこのプログラムは10月に初回の交換が行われました。

英語クラブの部員は4～6年生まで13名。第1作は「櫛形小学校紹介」と決め、写真の選定から撮影・説明文など自分達で考え取材し作品ができました。英訳は百年塾学校サポートチームが担当。タハタイ・コースト校からも「学校紹介」の写真が届き、広いグラウンド、学習



風景、図書館、学校の制服など日本とは違う様子をみんな興味深く見ました。第2作は「学校給

食」を取り上げます。外国の「昼ごはん」の写真が今から楽しみです。同時に現在は12月上旬の「手作り年賀状交換」に向けて作業が進行中で、これは日立の小学校初の試みです。

学校の制服は、夏は帽子、冬は長ズボン、寒い時は長そでのジャージを着ます。体育用の制服もあります。

シリーズコミュニティ訪問⑭ 中小路学区コミュニティ推進会

「明るく 楽しい 中小路」をスローガンに事業を進めている中小路コミュニティ推進会の福地^{いさお}事務局長に話を伺いました。

課題は他学区と同様、住民の人口減少、高齢化および活動への参加意識の希薄化で、活動参加者が年々減少しています。この対策として次の2点を実施しています。

一つ目は、小学生の時から地域活動に参加して貰おうという趣旨で、年間主要行事のうち、「クリ

ーンアップ作戦」「3世代敬老のつどい」「自主防災訓練」の3件を小・中学生の授業の一環としました。これらの行事への参加で、



にぎわう「なかまるしえ」

学校では学べないことをたくさん学んでいます。

二つ目は、若い人たちに地域活

動の大切さを理解して貰いたいとの思いから、日立駅前を会場に地域のお祭り「なかこうじワクワク大作戦(なかまるしえ)」を立ち上げました。中・高校生を中心に平成23年から毎年5月に実施。準備から運営、出演などに若い力を発揮しています。本事業は平成25、26年度の文科省「公民館等を中心とした社会教育活性化支援プログラム」に応募し、見事に選出され委託を受けました。

こうした取り組みで若い人たちが地域に目を向けるなど徐々に成果が表れています。

なみもと とこしえの濤声 - 川瀬巴水の目から日立を見る -

茨城キリスト教大学文学部教授 染谷智幸

かつて茨城のここかしこにあった美しい水辺の景色、それは私にとってかけがえのない〈ふるさと〉である。私は東京出身だが、父の親戚が茨城県に多く、小学生の夏休みには、必ずと言ってよいほど茨城に来て、その豊かな自然の懐に包まれた。

しかし、大学の教員として茨城に赴任した時、茨城のあまりの変貌、特に霞ヶ浦などの湖沼と海岸(太平洋)には驚いた。いま茨城在住の大学生たちに話をすると一様に驚くが、昔は霞ヶ浦に湖水浴場が幾つもあって夏には泳げたのである。私の記憶によれば、水は綺麗で湖面にはその名の如く、うっすらと霞がかかり、沖には帆引き舟が魚を取っていた。子供心にここは天国かと思ったほどである。

ところが今ではアオコが蔓延し泳ぐことなど考えつかない。水質を良くしようと研究者を中心に地元の関係者が奮闘努力されているのだが追いつかない状況である。

その後、茨城の自然への関心はとぎれ気味であったが、ここ数年でその関心はまた大きく膨らみつつある。

それは川瀬巴水(1883～1957)

という新版画家・浮世絵師との出会いが大きい。巴水は江戸時代から明治にかけての近代化の流れの中に埋没していった浮世絵を大正・昭和期に復活させた版画家である。同じ時代に版画の世界性を認識していた版元の渡邊庄三郎(茨城県五霞町出身)とともに六百数十点に及ぶ新浮世絵・新版画を世に送りだし、一時代を築き上げた人物である。

私は昨今、その巴水に魅かれて彼の画業を追いかけて始めた。「川瀬巴水とその時代を知る会」(通称、巴水の会)なるものを大学や地元の知人・友人らと作り、会長におさまっている。そのきっかけは二つある。一つは、巴水が昭和二十年代後半に茨城キリスト教学園に足繁く通い多くの作品(水彩画)を遺していたからである。もう一つは、巴水の版画の中に私が小さい頃に見た〈茨城〉が沢山残っていたからである。

巴水が残した版画で、茨城県を描いたものは26作品、その中で日立市が舞台となっているのは3作品である。「河原子エボシ岩」、「河原子の夜雨」、「水木の曇り日」。また茨城キリスト教学園を

描いた水彩画は5点遺されている。その内の3点をここに掲出してみた。

読者のみなさんが、この絵からどのような記憶を手繰り寄せられるのか、楽しみでならない。



①「茨城キリスト教学園の秋」(水彩画)



②「河原子エボシ岩」(版画)



③「水木の曇り日」(版画)

①③は茨城キリスト教大学図書館蔵。
②は『川瀬巴水全木版画集』(ホテイ出版、2008年)より引用

明日の地域活性化を！

ひたち生き生き百年塾推進本部が設立30周年および「ひたち市民カレッジ」10周年を迎え、市民を対象に8月23日、多賀市民会館で記念講演会を開催しました。講師



熱意の伝わる講演

の聖徳大学福岡強名誉教授(内閣府地域活性化伝道師)が「学ぶ楽しみ、活かす喜び、地域の活性化

を応援」のテーマで講演されました。各地の地域活性化成功事例を交えての「生涯学習」と「まちづくり」活動のあり方のみならず、生涯学習で学んだことを活かし地域に利益を生み出す工夫の必要性も示され、これからの百年塾の活動や私たちの生き方の指針となりました。

「きょうよう(今日用がある)」と
「きょういく(今日行くところがある)」
が大切

百年塾と茨城キリスト教大学共催の「ひたち市民カレッジ」10期生が5ヶ月の講義期間を完了し、この度修了式が行われました。参加者26名全員が無事修了証書を

受け、出席率は95%と立派な結果でした。

講義は日立市の施策と現状、まちづくりと地域活動、今どきの子ども考から認認介護、浮世絵、文



茨城キリスト教大学キアラ館にて

学、健康、陶芸、料理まで幅広く学んだ修了生は、今後百年塾の活動や地域の活性化のための活躍が期待されます。来年度も6月開講を予定しています。

外から見た日本と日立 ～ALTからの声～

百年塾では日立市にお住いの外国の人たちに快適な生活を送って頂くための情報提供に努めています。これまでアンケートやインタビューで意見を聞いてきました。今回はALTとして来日中の米国人講師のかたにインタビューをしました。

【ALTの背景】

日立市がALT制度（小中学校の補助英語教師）を導入したのは国の制度化よりも早い1984年で33年の長い歴史があります。講師は姉妹都市であるニュージーランドタウランガ市と米国アラバマ州バーミングハム市から招聘(しょうへい)しており、その関係は今日まで続いています。

日立市に来た動機

海外で働くことが人生への挑戦と考え、日本語の勉強と新しい経験を求めて来日しました。

素晴らしいと感じた点

日立には美しい海山の大自然があり、四季の変化で素晴らしい景観が得られ、海から昇る朝日が壮

観で、平和通りの桜にはその規模の大きさに驚きました。また人口は少ないがのどかで住みやすく人々も親切です。古い神社が残っている反面近代的なプラネタリウムもあり、各種イベントでは屋台の食べ歩きや、フリーマーケットなども楽しめます。県北芸術祭も面白い催しです。回転寿司や餃子など食べ物も多種多様でおいしいです。足を伸ばせばひたち海浜公園の雄大な花園も鑑賞できます。これらのことは母国の友人にぜひ伝えたいです。

不便に感じた点

店舗が早い時間に閉店したり、若者をターゲットとした店や映画館もなく、若年層の消費者が東京や水戸に流れてしまい、市の活性化にはマイナスでもったいないです。またどの店にどんな物があるのかの情報が欠けているのが不便です。公共交通のバスに英語表示がないので当初は利用方法が分からず苦労しました。また公文書などに氏名を記入する場合、姓と名

の順序が統一されておらず、長い名前では記入しきれないときもあり困りました。

英語教育へのアドバイス

英語教師はある一定期間海外生活をして、生きた英語体験を積むことが望まれます。例えば姉妹都市をもっと活用してはいかがでしょうか。また福島県天栄村の語学研修施設「ブリティッシュヒルズ」の活用も一方法と思います。

【終わりに】

日立市の良い点は私たちが日頃当たり前と思っていることを逆に彼らから知らされました。不便な点はやはり語学の問題と生活システムです。これら一連の指摘事項を改善するために百年塾ではその努力を今後も進める予定です。



左からブライアンさん、ジリアンさん、ドリュースさん

多くの市民教授が活躍中！

現在、20代から80代、約330名が市民教授に登録し、芸術・教育・食・工芸など多岐にわたる分野で活躍しています。

市民教授の自主的な企画を募り、市民の皆さんに向けて毎年「生き生き講座」を開講しています。昨年度は約30講座が計画され500名以上が受講されました。

また、市民教授は各地域においてもそれぞれのニーズに応え活動していますので、どうぞご活用ください。

ボランティア講師として自身のもつ経験や技術を市民に教授できるかた、受講者や他の市民教授との交流をとおして自らが楽しみ、住みよいまちづくりの一環となる活動に参加したいと思うかた、市民教授に登録しませんか。



ヨバ式体幹バランス講座

私たちは百年塾運動を応援します

2017.9.25～11.20 (敬称略)

【個人】

後藤登喜雄 後藤恵美子
藤崎圭一郎 佐藤純子

新市民教授です

2017.8月～9月に登録の方 (敬称略)

- 高澤麻美/台原町 (暮らしに役立つ漢方)
- 吉田ケイ子/小木津町 (絵手紙)
- 小沼紀子/城南町 (健康麻将)

市民教授を募集します！

市民教授に登録したいかたは百年塾サロンまでお電話を。

■百年塾サロン(窓口)では以下の業務を行っています

- 百年塾推進委員の受付
- 市民教授の登録、紹介
- 講座・講演の受付
- 生涯学習に関する相談

■ひたち生き生き百年塾推進本部 事務局

日立市教育委員会 生涯学習課 ☎0294(22)3111 (内線631)
百年塾サロン ☎0294(23)9165 FAX 24-5200
〒317-0064 日立市神峰町 1-6-11 日立市教育プラザ
ホームページ <http://www.net1.jway.ne.jp/iki100j/>
E-mail iki100j@net1.jway.ne.jp

